

全日本ホテル連盟創立50周年特集 ～次の50年を見据えて～

地域、国に貢献できる組織へ

2021年11月15日、全日本ホテル連盟（ANH）は創立50周年を迎えた。高度経済成長期に増加した国内の宿泊需要を担うべく1971年11月15日に誕生した「全日本ビジネスホテル協会」は、時代や宿泊ニーズの変化、会員数の増加や会員施設の業態の多様化に呼応しながらさまざまな活動を行い、組織名の改称を経て、観光業界・宿泊業界において重要な役割を果たしてきた。コロナ禍を経て、今後の方針を模索する中、同連盟は清水嗣能会長（福岡県・ホテルリバービューアケボノ）を中心に活動方針「M・V・S」（Mission、Vision、Value、State）を策定。会員ホテルへの裨益に加え、観光立国と地域貢献のための組織へとさらなる進化を遂げようとしている。コロナ禍で国内のホテル業界に大きな変革の波が打ち寄せる中にありながら、それ以上に大きく変わり、より大きな役割を国、地域、そして会員ホテルに対して果たそうとする同連盟の現在と今後の姿が、清水会長や小林磨史副会長（長野県・ホテルニューアーク・インターナショナル）、関係各位のコメントから色濃く、かつ明確に見えてきた。

連盟の歴史

50年前の1971年昭和46年11月15日に「全日本ビジネスホテル協会」が誕生しました。背景と志が集まり、和製英語として使われていた「ビジネスホテル」を名に使用した協会を設立しました。その後、バブル期を経てさまざまな生活の高度化や多様化を背景に宿泊単機能でない会員ホテルも増加していったことから、92年平成4年に会の名称を「全日本深・安全・気軽なホテルが建設された」と、これに時代の

50周年の意義

そして昨年度、おかげさまで創立50周年という節目を迎えることができました。これまで歩んできた道のりを振り返り、これから歩んでいくべき方向を見定めること

連盟のめざす姿

この50周年を契機に連盟のあるべき姿について自己探求するために、新たに「M・V・S（Mission、Vision、Value、State）」を策定いたしました。

私たち連盟のMission、すなわち使命は「時代のニーズを捉え、革新性をもって、会員ホテ

恵や気概を私たちが連盟のDNAとしたからにはかなりませ

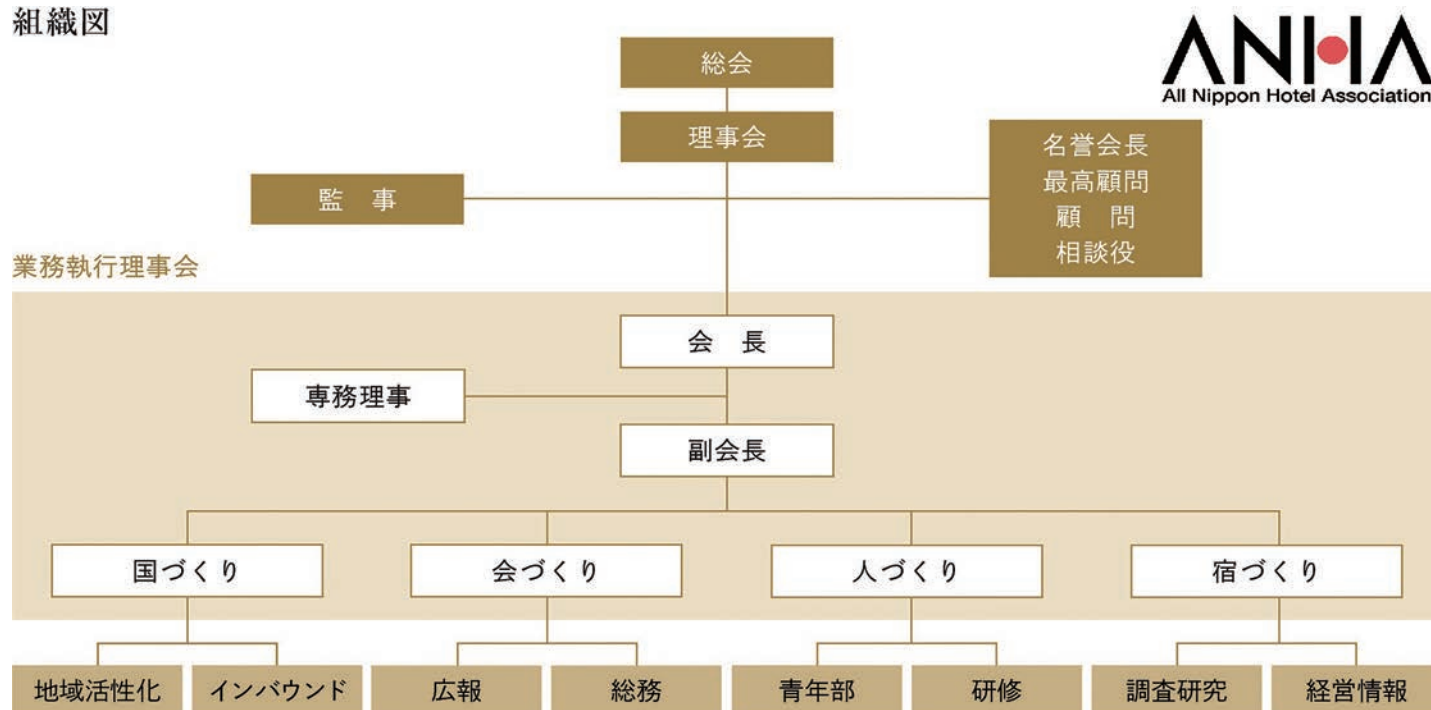
そしてVisionに掲げる「会員ホテルの成長と挑戦を促し、日本および地域に新たな風を起すインベーターになる。」とこれからめざすべき方向性を示し、これを凝縮し、昇華した思

いを新しい物語を、ホテルから」というStatementに表現

改めて自分たちの作った理念であるM・V・Sをもつめ直してみ

ますと、そこにはその連盟がインベーターという人づくりに取り組むことで「観光立国の実現を通じ、社会貢献を果たす」とこそが連盟の存在意義である」というメッセージが見えます。つまり「人づくりによる国づくり」です。

ANHA
All Nippon Hotel Association



名称変更と具体的活動

さらに、私たちは創立50周年を機に新しい1ページを刻むために、昨年4月1日付で「一般社団法人全日本シティホテル連盟（JCH）」から「一般社団法人全日本ホテル連盟（ANH）」へと名称を変更しました。

その成長の証として、昨年度は長野県松本市と福井市において、そして今年は金沢市において50周年記念事業として観光立国実現をめざした地域活性化をテーマにタウンミーティングを開催しました。官民含めた各地域の観光事業者を巻き込んだ象徴的な事業として、これからの連盟活動の方針を示すものであります。

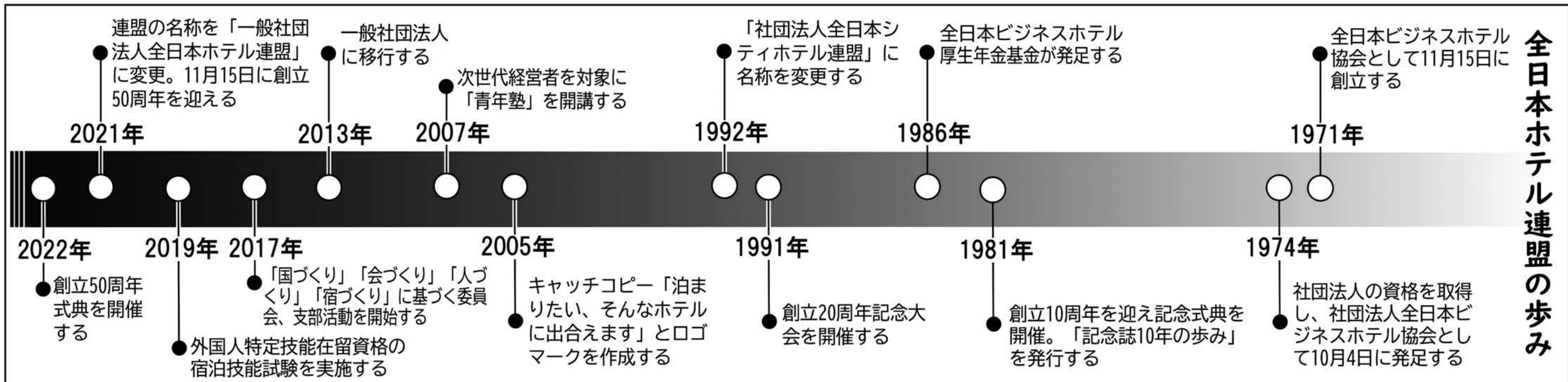
感謝と決意

本筆ながら、これまで当連盟のご指導を賜ってまいりました国会議員の先生方や観光庁さまをはじめ、創立や発展を支へ、ご尽力いただいた先輩諸兄並びに会員各位とその従業員の方々に、さらに私たちが支援して下さっている賛助会員の皆さまに、これまで当連盟を育てていただいたことに深く感謝の意を表し、御礼のあいさつとさせていただきます。

今年6月の令和4年度通常総会。清水会長は「世のため、人のため、国のため」の組織を目指すことを掲げ、「正・準・賛助会員の別なく、誰もが意見を発信でき、人材が育成しやすい環境整備」などの観点から実施した支部規約改定の内容などを説明した。



清水嗣能会長

東京都知事
小池百合子氏

全日本ホテル連盟が創立50周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。貴連盟が、長きにわたり、良質な宿泊サービスの提供や地域の発展に尽力してこられたことに深く敬意を示します。これまでの新型コロナウイルス感染症対策への多大なご尽力に感謝いたします。このコロナ禍は、社会に大きな変化をもたらしました。加えて、気候変動やエネルギー危機、さらにはデジタル化の進展など、時代は急激に変わろうとしています。世界の動きは極めて早く、国際競争は一層熾烈さを増しています。変化への迅速な対応が、東京と日本の持続可能な成長につながります。そして、日本が世界から選ばれ続ける旅行地になるためには、地域観光の拠点であり、旅の思い出として心に残るホテルの役割がますます重要なものになります。東京都も皆さまと手を携え、観光立国日本としての礎を築いていけるよう、日本各地と連携した魅力の発信や、誰もが快適に旅行を楽しめる環境の整備を推し進めてまいります。結びに、会員の皆さま方のご健勝と、全日本ホテル連盟の今後のますますのご発展を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

観光庁長官
和田浩一氏

全日本ホテル連盟が創立50周年を迎えられましたことに、まずお祝いを申し上げます。50周年を迎えるに当たり、「時代のニーズを捉え、革新性をもって、会員ホテルの価値向上を支援すると共に、観光立国の実現と地域の発展に寄与する。」とミッションを策定されたことに、心から敬意を表したいと思います。さて、本年で発足14周年となりますが観光庁は、観光立国の実現に向け、政府を挙げた施策を強力に推進することを目的として発足しましたが、この間、リーマンショック、東日本大震災など、国内外の大きな困難に直面し、観光関連産業の皆さまと乗り越えてまいりました。今般、新型コロナウイルス感染症のため、国際的な移動はもちろん、国内の移動も大きく制限されるなど、前例のない困難な状況に直面することとなりましたが、今こそ、ホテルの業態を新たに創りあげた全日本ホテル連盟が、革新性を発揮されるときです。果たすべき使命として掲げる、「長期的展望に立って、人が訪れたいくなるような地域づくり、泊まりたいくなるようなホテルづくり」を、会員ホテルの皆さまとぜひ実現していただきたい。皆さまとコロナ禍を乗り越え、次の50年に向けて、ともに力強く歩んでいきたいと考えております。

全日本ホテル連盟
創立50周年に寄せて

（連盟創立50周年記念誌より引用、転載）

全日本ホテル連盟創立50周年特集 ～次の50年を見据えて～

観光立国実現を通して、会員、

MVVS策定の背景とこれからへの思い

設立50周年を迎え、ANHAは組織の存在意義と今後の方向性を明確にするために「MVVS」(Mission、Vision、Value、Statement)を策定した。

MVVS策定の背景にある思いやその策定プロセス、そしてこれからのめざす姿などをテーマに、清水会長と小林副会長(右)が語り合った。



ANHAの存在意義と進むべき方向性を明確にしたMVVS

清水 ANHAが50周年を迎えるに当たってMVVSを策定した背景には、「私たちの連盟は社会に役に立つ団体でありたい」という強い思いがありました。実は、これは私がこの業界に入った当初から、ずっと考えていたことなんです。これまでの連盟の活動は、会員同士の情報交換や行政への陳情が中心でしたが、広く社会に貢献していくためには、自分たち本位ではなく、「三方良し」の考えのもとに連盟の存在意義と立ち位置を明確にする必要がある。日本の観光立国と地域社会の発展に寄与するというミッションを明確にうたうべきだと思っていました。

小林 MVVSの策定過程では、これが市民権を得て広く浸透していくように、なるべく皆さんの思いや意見を取り入れるようにしたい。2019年の秋役員や業務執行理事を中心とするワークショップを開催して、「一人一人の心の中にある思いを言葉にして」書き出していただきました。その中から「これからやっていきたいこと」「自分のしやうていないこと」という4つのマトリクスに分けて整理していきまし

業務執行理事会でのワークがMVVSのベースに

清水 MVVSの策定過程で、私が市民権を得て広く浸透していくように、なるべく皆さんの思いや意見を取り入れるようにしたい。2019年の秋役員や業務執行理事を中心とするワークショップを開催して、「一人一人の心の中にある思いを言葉にして」書き出していただきました。その中から「これからやっていきたいこと」「自分のしやうていないこと」という4つのマトリクスに分けて整理していきまし



MVVSという柱ができた今、私たちがなすべきことは

小林 MVVSが決まったことで、どうやって理念を実現していくかというのを新しいテーマとして考えていきたいですね。清水 MVVSは、ただの言葉ではなく、行動を促すものです。実際に、松本と福井でタウンミーティングを開催しましたが、MVVSは「街ぐるみの取り組みを通じて自分たちがお世話になってきた地域に貢献する」という行動を起こす勇気を与えてくれました。小林 清水会長も私の世代にバトンを託す時期で、植物でいえば、育ってきた芽に水をかけるのが役割だと思っています。今まではいろいろな活動によってお金を得ることができた。今回のタウンミーティングも、そのつながりが人を呼んでくれました。もし、かしたら、タウンミーティングは自分の仕事の集大成だったのかも。清水 MVVSを決めた時は、ちょうど新型コロナウィルスが蔓延してきた時期で、業務執行理事から生活様式が変わりつつある中、MVVSの内容は時代に合わせていくという意見が出ましたが、ミッションには時代のニーズを捉えるという言葉が入っています。これはもともと、業務執行理事が交流してお互いの課題を解決し合うような組織であってほしいと思います。全国のホテルで働く皆さんが、つながって情報を交換したり、友達をつくらうこと、ホテル業界全体が活性化していく。さらに枠を広げて、ホテルに限らずさまざまな業界の皆さんがもっと集まってきてくれるとうれいですね。小林 次世代の皆さんには、新しいことに挑戦して感動を味わってほしいと思います。人と話をしている時は一杯飲んで言いたいことを言って経験値を積み上げていく。失敗してしまってもその失敗は必ず次に生きます。私もたくさん失敗してきましたが、全て何の糧にもなっています。新しいチャレンジは必要です。無理をしなくても、でもそれを経験することでも人々組織も強くなります。そういって人たちの集まりである限り、当連盟は続いていくと思います。清水 私からもう一つ加えること、やはり活動は「楽しくなければ続かない」ということです。「あの人に会いたいから」「この活動が楽しいからやるんだ」というモチベーションを引き出して継続させていくことも、この組織のきつかけかなと思います。bサイトのリニューアルに合わせて会員向けページも作り直しました。従業員は皆さんが、休憩時間や仕事の合間にこのWebサイトでもミニ一視察やホテルの専門的な知識を学ぶことができるようになります。一人一人が「こうしたい」「こうありたい」と将来に思いを注ぎ、そして力を合わせ、その実現に取り組んでいく。全日本ホテル連盟がそんな組織であってほしいです。



「コロナ禍を次世代に生かす」～未来を見据えた新たな取り組み～

初の西日本大会



今秋には近畿・中四国・九州ブロック主導で連盟初となる西日本大会を開催。各地域のDMOを交えた広域連携などを中心に情報を共有した

オンライン配信に注力



大阪観光局・溝畑宏理事長らを招いた経営者セミナー(写真)やコンプライアンスセミナーでは、オンライン配信を実施。会員への情報提供、法令順守の啓発に努めた

タウンミーティング



松本市と福井市、そして金沢市でタウンミーティングを開催。各自治体独自の取り組みを出席者や会員と共有した

公式Webサイトをリニューアル

情報、コンテンツを充実させ発信力強化

MVVSに基づく取り組みの一環として、ANHAの公式Webサイトをリニューアル。新装したWebサイトでは、各会員が最先端の取り組みや最新の情報をいち早く知ることができ、また、各会員の活動や業務に役立つ情報を提供し、今後の活動や業務に役立ててもらうことを目指しています。

Webサイトでは、各会員が最先端の取り組みや最新の情報をいち早く知ることができ、また、各会員の活動や業務に役立つ情報を提供し、今後の活動や業務に役立ててもらうことを目指しています。